

今日のトピック 米国の金融政策（2016年6月）

政策金利は据え置き：低金利は長期化へ

ポイント1 政策金利を据え置き

政策金利見通しを下方修正

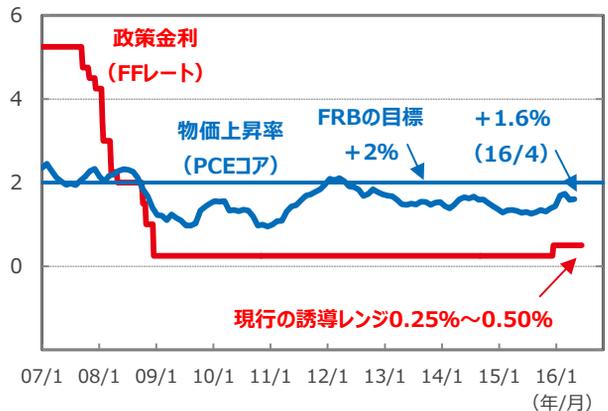
- 6月14日、15日に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）は、市場の予想通り政策金利（FFレート）の誘導レンジを0.25%～0.50%で据え置くことを決定しました。
- 声明文では、「経済は緩やかな拡大を持続する見通し」とされました。FOMC参加者による経済予測によれば、16年、17年の成長率見通しが小幅に下方修正されました。
- 政策金利について見ると、16年は0.25ポイントの利上げ2回というのが、引き続きメンバーの平均的な予想でした。ただ、年内1回だけの利上げを見込むメンバーの数が、前回3月時点の1人から今回は6人に増加しました。さらに17年の予想も下方修正されています。

ポイント2 債券相場は上昇

株価や米ドルは小幅な下落

- 声明文の公表後、10年国債利回りは低下しました。17年以降の政策金利見通しが、引き下げられるなど、全体的にハト派色の濃い内容だったためです。他方、株価は小幅に下落、為替市場ではドルが主要通貨に対して売られました。

政策金利と物価上昇率の推移



(注1) FFレートは2007年1月5日～2016年6月15日。2008年12月以降のFFレートは誘導レンジの上限を表示。
 (注2) 物価上昇率は2007年1月～2016年4月。PCE（個人消費支出）コア物価指数の前年同月比。
 (出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

FOMC参加者の経済見通し

項目	開催月	2016年	2017年
GDP成長率 (%)	6月	2.0	2.0
	3月	2.2	2.1
失業率 (%)	6月	4.7	4.6
	3月	4.7	4.6
物価上昇率 (%)	6月	1.7	1.9
	3月	1.6	1.8
FFレート (%)	6月	0.9	1.6
	3月	0.9	1.9

(注) FOMCメンバー予測の中央値。GDPと物価上昇率は第4四半期の前年同期比。物価上昇率はPCE（個人消費支出）コア物価指数の上昇率。
 (出所) FRB（米連邦準備制度理事会）の資料を基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 緩慢なペースでの利上げ、金融資産に有利な環境が続こう

- 景気の拡大を受け、今後も利上げが実施される可能性はあります。ただ、景気拡大ペースが緩やかなこと、物価上昇率が低い水準で安定していることから、利上げペースは極めて緩慢となる見通しです。
- 利上げが継続されたとしても、そのペースは緩慢なものにとどまることから、国債利回りは当面、落ち着いた推移が見込まれます。株価は、景気・企業収益の拡大を織り込む展開に移行すると見られます。

ここもチェック! 2016年6月14日 米国の債券市場（2016年6月）
 2016年6月 6日 米国の雇用統計（2016年5月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。